

2020年度事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

公益財団法人 理想教育財団

2020年度実施事業の内容

事業区分一覧

事業	内 容
調査・研究事業	A-1 学校情報伝達システムの調査・研究 通信づくり講習会等、教師または大学の教職課程の学生を対象とした講習会の実施 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究
	A-2 教師による自作教材の調査・研究 学習プリントをカラー化することによる教育効果・視覚的効果などの調査・研究
	A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 はがき新聞の教育効果に関する調査・研究 学級力向上プロジェクトとの連携での調査・研究(H29よりA-1から移動) 理想教育財団教育フォーラムの開催 壁新聞づくりの調査・研究
情報提供事業	B-1 教育関連出版物の刊行 通信づくりに役立つ冊子等の刊行
	B-2 研究情報誌の発行 「季刊理想」の発行
	B-3 ホームページの運用 事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報を提供する。
助成・顕彰事業	C-1 後援・支援の事業 臨書と自由書作品展の共催 文化芸術教育の充実に関する事業への助成、その他プリントコミュニケーション活動の発展に関わる事業への助成
	C-2 新聞教育の普及・振興 全国小・中学校・PTA新聞コンクールの後援 全国新聞教育研究大会の後援 地域の新聞教育に対する支援
	C-3 日本人学校等への支援・助成 海外日本人学校に対する児童図書寄贈 その他海外への教育支援
	C-4 コンクールの開催・顕彰 プリントコミュニケーションひろばの開催

【A】調査・研究事業

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

①所沢市学校食育研究会総会における食育指導講演会(講師派遣)	
日時	6月
場所・参加者	所沢市生涯学習推進センター
内容	・前年度大変好評につき予定していたが中止となった。 新型コロナウイルス対策の為中止となる
②愛知教育大学公開講座支援(講師派遣)	
日時	6月、7月
場所・参加者	愛知教育大学
内容	・愛知教育大学の講座への講師派遣。前年度は2講座あり今期も実施予定だった。 新型コロナウイルス対策の為中止となる
③日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)総会参加	
日時	6月10日(水) 13:00～
場所・参加者	機械振興会館 参加者 40名程度
内容	・今後のICTの普及による教育のあり方の変化に対応すべく、JAPETに昨年度加入。学校現場のICTの動向調査の一環として、また財団活動の参考団体として注視していきたい。
④日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)会員交流会参加 (ZOOM会議)	
日時	6月29日(月) 15:00～
場所・参加者	財団事務所より参加 参加者多数
内容	・JAPET加入後、初のZOOMによるオンライン交流会に参加。文科省 高谷課長によるGIGAスクール構想解説他。⇒ZOOMの機能・効果を確認できた。
⑤東洋大学 特別実習講座支援 講師:吉成先生(オンライン講座)	
日時	11月16日(月)13:00-14:30
場所・参加者	東洋大学の教室よりオンラインでの講座・参加29名
内容	・文学部北澤教授からの要請にて講師派遣。大学側の設備でオンラインにて、通信・はがき新聞の意義、作成方法について講義。2回コースの初日。2回目が実習。
⑥東洋大学 特別実習講座支援 講師:吉成先生(オンライン講座)	
日時	11月23日(祝)13:00～14:30
場所・参加者	東洋大学教室よりオンラインでの講座・参加34名
内容	・文学部北澤教授からの要請にて講師派遣。大学側の設備でオンラインにて講義。2回コースの2日目は実習。実技指導は制作途中を画面で確認するなどしながら実施。
⑦江東区小学校教育研究会 学校給食部研修会講師派遣 講師:吉成先生(オンライン講座)	
日時	1月13日(水)13:00～14:30
場所・参加者	江東区内小学校 栄養教諭他 参加計18名(財団会議室より配信)
内容	・教材:「学級通信ネタ&デザイン集」「通信づくりの知恵袋」を利用し、吉成先生によるオンラインの授業実施。東雲小学校鈴木校長先生から「明日からすぐ生きる、生かせる講義でした」との評価あり。
⑧日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)教育の情報化推進フォーラム参加 (ZOOM会議)	
日時	3月5日(金)16:30～
場所・参加者	財団事務所より視聴 参加者多数
内容	・放送大学客員教授でプリコミひろば最終審査員の佐藤 幸江先生がコーディネーターを務められた「情報活用能力を意識した授業づくり」を視聴。学びを深める項目の部分ではがき新聞の活用も紹介されていた。

A-2 教師による自作教材の調査・研究

「学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚効果などについての調査・研究」
 ・助成品として「2色プリントの活用事例」を配布した。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

<p>調査・研究対象について *学習指導要領の「言語活動の充実」を図るため、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法として「はがき新聞づくり」を推奨。「はがき新聞づくり」は単なる行事、体験の報告に留まらず、多くの教科での活用が可能である。調査研究「コンパクトテキストによる文書表現力育成研究」の対象として、物語文以外に短歌俳句や特別の教科道徳を含むこととした。また新規に開始した「私の見つけた言葉ノート」の普及版「言葉のポケット」を作成し、現場での実証を行った。</p>

1) 主な活動状況

①実践援助としての助成状況：特別助成校(プリンタ付)、一般助成校(プリンタ無し) 2021年3月末現在			
	特別助成校	一般助成校	合計
小学校	381	1313	1,694
中学校	192	811	1003
高校・養護等※	14	68	82
計	587	2,192	2,779
2020. 3末	579	1,979	2,558
増減	8	213	221

*全国の小中学校(除高校大学)の累積普及率
2,779校 / 29,919校 9.29%

②はがき新聞等の推進活動	
(1)2019年度の実践報告書から授業実践事例集(抜粋版)を制作。	
(2)朝日新聞のWebサイトAsahi Teachers' Roomにはがき新聞事例を掲載	
(3)2020年度授業実践について報告を依頼	
(4)新規助成品の開発及び終了	
内容	新規:①郵便はがき新聞を追加。 ②英語授業等の横書きニーズに対応する為、はがき新聞(横書き)を2種追加した。 新規開発品は必要に応じ商標登録、実用新案等の申請を行う。本年度は「透明ポケットミテミテ」の商標登録が完了した。 終了:ニーズの低い横置き型のはがき新聞原稿用紙(3種)は在庫限りでの終了とし、ラインアップを整理する。

2) はがき新聞の教育効果についての研究委託

①研究テーマ「コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究」	
内容	コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究(「はがき新聞」を「コンパクトテキスト産出」型の取り組みとして位置づけ、学校教育の様々な局面においていかに応用できるかを考えるとともに、語彙教育への活用法を開発する)
実施期間	2020年4月1日～2021年3月31日
研究委託者	早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生 1982年京都教育大学卒、1985年大阪大学大学院文学研究科博士課程修了、1988年同大学講師、1990年京都教育大学助教授、2004年同教授、2008年より附属幼稚園長を兼任、2012年より早稲田大学文学学術院教授、京都教育大学名誉教授。

②研究テーマ「はがき新聞用紙を活用したコンパクトライティングを位置付けた単元学習の方法」	
内容	「主体的・対話的で深い学び」を実現する言語活動、特に書く事とのかかわりを考察し、はがき新聞用紙を活用したコンパクトライティングにより実現できる指導法について有効な提案を解明する。

実施期間	2020年4月1日～2021年3月31日
研究委託者	佐賀大学 教育学部 国語科教育 教授 達富洋二先生
	離島の小規模公立小学校、都市部の公立小学校、国立大学附属小学校および小中学校など、約20年間の小中学校での実践を経て、現在は佐賀大学に勤務。長崎大学非常勤講師。九州 教室の声に学ぶ会をはじめ、長崎、佐賀、熊本、鹿児島など、九州各地で研究会を主宰。

③研究テーマ「学級力を高める探究的な学習を取り入れた授業方法の開発研究～はがき新聞を表現ツールとして活用して～」

内 容	子どもたちが主体的・協働的に学級づくりを行う力を育て、はがき新聞を表現ツールとして活用して新しい授業方法を研究開発してゆく。
実施期間	2020年4月1日～2021年3月31日
研究委託者	早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生
	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在学中に助手となり、大阪教育大学助教授・教授を経て、2009年4月より現職。文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」委員(2007年～2018年)。専門は、授業デザイン・学習指導論。

3)教育フォーラムの開催

①第13回教育フォーラム開催

日 時	8月30日(日)13:00～17:30
会場・参加者	大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪) 12F 特別会議場 定員250名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・日時:2020年8月30日(日) 13:00～17:00 ・場所:大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51 大阪府立国際会議場 ・対象:全国の教育関係者及び財団関係者 ・テーマ「未来を生き抜く子どもたちの資質・能力を高めるために」 ・特別講演 東京工業大学 名誉教授 赤堀侃司 先生 ・実践報告等 早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生他
	5/7 新型コロナウイルス対策の為中止を決定

※例年開催していた冬のエデュフォーラム(第14回)は予算縮減の為中止としました。

②第3回教育シンポジウムin高知(主催)

日 時	9月開催予定。
場所・参加者	高知市内・参加者未定
内 容	言語技術サークルの研修会を拡大して実施予定 新型コロナウイルス対策の為中止された

③九州 教室の声に学ぶ会 第4回長崎の小さな集い(後援)

日 時	11月3日(祝)
場所・参加者	セントヒル長崎・参加者20名
内 容	はがき新聞を活用した実践及び効果の測定に関する発表、議論が行われ、その指導方法について共有がなされた。

4)その他講習会・研修会等

①第13回関西学級力向上研究会(共催)

日 時	5月を 順延 →11月29日(日)開催予定 →※後述
場所・参加者	オンライン(ZOOM)運営
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生の講演 ・学級力向上プロジェクト実践報告

②中部学級力向上研究会(共催)

日 時	6月を 順延 →11月7日(土)開催予定 →※後述
場所・参加者	オンライン(ZOOM)運営

内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知教育大学准教授 磯部征尊先生の講演 ・学級力向上プロジェクト実践報告
-----	--

③杉並区立杉並第七小学校「若手学ぼう会 学級力向上プロジェクトの実践」(資料助成)	
日 時	9月18日(金)
場所・参加者	第七小学校教室 参加7名
内 容	・星野由里子先生を中心とする勉強会をサポート。

④はがき新聞研究会(関西部会)⇒はがき新聞研究会webプラスとして開催(主催)	
日 時	9月20日(土)10:00～12:00 ※webプラスとはリアル+オンラインを複合した会議のこと
場所・参加者	理想教育財団会議室参加4名 オンライン参加15名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・8/22～参加者に事前接続テストを実施し、個々に操作方法を指導した。 ・9/20 Zoomでの初回の研究会。事前に接続テストを行うなど万全を期しての開催だった。結果、森山先生ご発表、3名の先生方の発表&討議をオンライン上で行うことが出来た。会議時間を2時間に短縮したことで議論が尽くせなかったが、研究会としてはこの方式で継続可能と思えた。

⑤はがき新聞研究会(関東部会)⇒はがき新聞研究会webプラスとして開催(主催)	
日 時	9月26日(日)15:00～17:00
場所・参加者	理想教育財団会議室参加4名 オンライン参加20名
内 容	・Zoomでの2回目の研究会。関西と同じ2時間で3名の先生方の発表&討議だったが、森山先生からの提言についての討議もでき充分有意義な研究会であった。

⑥中部学級力向上研究会(共催)	
日 時	11月7日(土)13:00～17:30
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加21名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・司会進行 愛知教育大学准教授 磯部征尊先生 ・学級づくりに顕著な効果があった実践の報告4件 ・財団HPに学級力のコーナーを設けてほしいとの要望あり

⑦第13回関西学級力向上研究会(共催)	
日 時	11月29日(日)10:00～12:00
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加21名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・関西学級力研究会として初めてオンラインで開催 ・進行は桃山学院教育大学 准教授 今宮信吾先生 ・尼崎市立武庫東小学校 宇都亨先生による「コロナ禍で行う最高学年の学級力」等の発表があった

⑧関東学級力向上研究会(共催)	
日 時	12月26日(土)13:30～17:10
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加29名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・進行は早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之先生 ・早稲田大学 客員教授遠藤 真司先生による理論提案、豊島区立仰高小学校 関川卓先生他計3名の実践発表があった。2つの会場に分かれブレイクアウトルームでの交流会も行われた。

⑨中部学級力向上研究会(共催)	
日 時	2月6日(土)13:00～16:45
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加51名
内 容	・司会進行 愛知教育大学准教授 磯部征尊先生

内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・学級づくりに顕著な効果があった実践の報告8件 ・新潟市立大形中学校遠見繁也校長先生の発表が注目を浴びた
-----	---

⑩第31回北海道十勝新聞教育研究大会・NIE十勝地区セミナー(講師派遣)講師:早稲田大学教授 森山卓郎先生	
日 時	2月11日(木) 10:30~12:15
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加22名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・森山先生による講演『楽しく考える力をつけるための新しい新聞教育～「言葉」に注目する～』(今後、オンラインでの研修等への講師派遣が増加中につき、更なる研鑽が必要)

⑪第14回関西学級力向上研究会(共催)	
日 時	2月13日(土) 13:00~17:00
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加25名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・進行は桃山学院教育大学准教授 今宮信吾先生 ・聖母学院小学校 清水生恵先生他2名の先生の実践発表があった。 ・早稲田大学の田中博之教授からいじめ問題についての取り組み強化の示唆があった。

⑫はがき新聞研究会 Webプラス(関東・関西合同部会)(主催)	
日 時	3月20日(土) 9:30~12:15
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加33名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・関東、関西の初の合同部会としてオンラインにて開催。 ・桐生市立川内中学校 福田 守宏先生他計4名の実践発表があった。 ・森山卓郎先生企画の「はがき新聞学習支援プロジェクト」の方向性が示された。

⑬関東学級力向上研究会(共催)	
日 時	3月27日(土) 13:30~17:10
場所・参加者	オンライン(ZOOM)開催・参加24名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・進行は早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之先生 ・大田区立都南小学校 関口侑羽先生他 計4名の先生の実践発表があった。 ・4月以降の関東部会の新部会長就任予定の藤原 寿幸先生の総括で締めくくられた。

B-2 研究情報誌の発行

①機関誌『季刊理想』の発行	
<ul style="list-style-type: none"> ・読者拡大のため多彩な記事を掲載するよう新規助成品の紹介や絵を観るヒントの連載、また巻頭エッセイの寄稿者選考への配慮など紙面の充実を図った。 	

B-3 ホームページの運用

①常に新鮮な情報をアップ	
<ul style="list-style-type: none"> ・助成物品申込システム更改 ・各種助成品の紹介や、申し込み窓口としての機能充実を図った。 	

【C】助成・顕彰事業

C-1 後援・支援事業

①小中学生記者の文化財取材コンクール 主催 京都古文化保存協会 (後援)	
日 時	7月25日(土)
場所・参加者	京都
内 容	新型コロナウイルス対策の為中止となる

②京都府6年目教員指導力向上講座(資料支援)	
日 時	8月5日(水)
場所・参加者	京都府教育センター
内 容	新型コロナウイルス対策の為中止となる

内容	新型コロナウイルス対策の為に中止となる
----	---------------------

③広島市教育委員会「第14回 文化の祭典」助成(資金助成支援)	
日時	11月5日(木)～12月17日(木)
場所・参加者	JMSアステールプラザ 市民ギャラリー
内容	小中学校における文化芸術活動の発展・充実を図り、児童生徒の文化芸術活動の成果を発表する機会として「文化の祭典」を開催された。そのチラシ作成費用を助成した。

C-2新聞教育の普及・振興

①横浜市中学校新聞コンクール 横浜市中学校教育研究会主催 (印刷支援等)	
内容	・5月作品集制作支援(新型コロナウイルス対策の為に総会では中止となる)

②千葉県新聞教育研究会総会(会長 小嶋享治先生)	
日時	6月20日(土)16:30～20:00
場所・参加者	全日警ホール2階会議室 参加15名
内容	・全国新聞教育研究大会 千葉大会(8月21・22日)が中止になり、第63回 全国新聞教育研究大会～Remember2020～(仮称)として来年8月20日(金)21日(土)に千葉で行われることになった。

③千葉県新聞教育研究会例会参加(会長 小嶋享治先生)	
日時	8月3日(月)17:30～19:00
場所・参加者	全日警ホール2階会議室 参加20名
内容	・財団助成品紹介 ・全国新聞教育研究大会 千葉大会は2021年8月17日(火)-18日(水)開催となった。 ・市川市法典西小学校内田教諭からの授業実践報告があった。

④第63回全国新聞教育研究大会 千葉大会(後援)	
日時	8月21日(金)～22日(土)
場所・参加者	全日警ホール
内容	・2021年8月17日(火)18日(水)に改めて千葉県にて開催予定。 新型コロナウイルス対策の為に中止となる

⑤東京都中学校新聞教育研究会参加(会長 小林豊茂先生)	
日時	8月30日(日)16:00～18:00
場所・参加者	荒川第九中学校 参加14名
内容	・財団人事の報告と新規助成品紹介 ・新年度人事(事務局長 町田市立真光寺中学校 山田慎一先生)、収支報告、活動報告、本年度予算等 ・今後の計画 11/15、12/20、1/16、1/30、2/27

⑥第53回学校新聞まめ記者講習会 神奈川県私立小学校協会主催 (印刷支援)	
日時	8月
場所・参加者	茨城県
内容	新型コロナウイルス対策の為に中止となる

⑦千葉県新聞教育研究会例会参加(会長 小嶋享治先生)	
日時	9月16日(土)17:30～19:00
場所・参加者	全日警ホール2階会議室 参加16名
内容	・来年度の全国新聞教育研究大会 千葉大会(2021年8月17.18日)に向け、今後の活動の元となる授業実践事例を発表しあう。今回は壁新聞づくりの授業実践を研究した。

⑧国立三瓶青少年交流の家(島根県) 新聞をつくろう! ~さんべの体験を「My新聞」に~ (資料提供)	
日 時	10月17日(土)-18日(日)
場所・参加者	三瓶青少年交流の家 資料30セット提供
内 容	・コロナ禍につき、直接の参加はせず。はがき新聞等の素材提供のみ実施。

⑨千葉県新聞教育研究会例会参加(会長 小嶋享治先生)	
日 時	10月21日(水)18:00~20:00
場所・参加者	全日警ホール2階会議室 参加13名
内 容	・来年度の全国新聞教育研究大会は市教委+教育センターの支援OKとなった。センターの研修も合同で実施予定。その後、大和田小学校伊藤先生によるワークショップがあった。

⑩令和2年度 岩手県小・中学校新聞コンクール 助成	
日 時	12月3日(火)
場所・参加者	岩手県内の小学校、中学校の児童生徒
内 容	・小・中学校応募総数47校、600作品。内、最優秀賞22点、優秀賞55点、計77点。 ・コロナ禍の為、表彰式、作品集の作成は中止となるが、表彰盾の助成を行う。

⑪大牟田市立大正小学校「はがき新聞」授業支援(資料提供)	
日 時	1月29日(金)
場所・参加者	大正小学校にて 6年1組,2組の児童(約60名)
内 容	・西日本新聞後援の映画「いのちのスケッチ」(大牟田市が舞台)を題材にしたはがき新聞授業が行われた。はがき新聞を使っての授業は6年生の2クラスが対象で、西日本新聞の白土氏講師により行われた。コロナにより財団からの参加は出来ず。

⑫千葉県新聞教育研究会例会参加(会長 小嶋享治先生)	
日 時	3月24日(水)18:00~20:00
場所・参加者	全日警ホール2階会議室 参加13名
内 容	・第63回全国新聞教育研究会(千葉大会)開催の是非を議論。①オンライン開催②来年に延期③時期を延ばして実施 を選択肢として全新研本部と相談して決定する。

C-3日本人学校等への支援・助成

①海外日本人学校等への支援・助成	
内 容	公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により日本人学校、補習授業校、補習校へ図書を寄贈。
寄贈先	海外子女教育振興財団と今期の図書寄贈先について検討。日本人学校、補習授業校の情報を基に10校を決定した。釜山日本人学校(韓国)、マドリッド日本人学校(スペイン)、プーケット日本人補習授業校(タイ)、カンザスシティ日本語補習校(米国)、マディソン日本語補習校(米国)、モントリオール日本語補習校(カナダ)、トリノ補習授業校(イタリア)、ドレスデン日本語補習校(ドイツ)、キャンベラ補習授業校(オーストラリア)、ウェールズ日本人補習授業校(英国)

②ネパール教育支援	
内 容	一部を残し3か年のネパールへの教育支援を終了した。ただし、SDGsへの対応を踏まえ、3年間で培われたネパールとの縁を元に活動が出来れば継続を検討する。

C-4コンクールの開催・顕彰

①第16回「プリントコミュニケーションひろば」

募集期間	2020年1月2日～3月31日
応募状況	小学校211点、中学校179点、高等学校42点 その他3点 計435点 (前年比+23点/106%)
(前年実績)	小学校209点、中学校182点、高等学校20点 その他1点 計412点 (前年比-71点/85%)
審査	8/1一次審査会(小学校)、8/8一次審査会(中学・高等学校)、9/24～11/28最終審査
結果	最優秀賞 那覇市立寄宮中学校 上原美絵 部門別優秀賞 相模原市立弥栄中学校 田中嵩樹、北海道鹿追町立鹿追中学校 中村宏喜、 岡崎市立大樹寺小学校 永田祐己 特別席×2点、部門別優良賞×8点、ひろば賞12点ほか
経過	今年度の応募総数は、新型コロナウイルスによる休校(2月27日から)の影響か、前年比+23点と増加した。審査会は緊急事態宣言の発出もありしばらく保留としていたが、一次審査を8月に実施した。最終審査は、一次審査通過作品を最終審査員の自宅に送付し、採点済審査票を回収・集計したのち、11/28にオンライン会議にて各賞を決定、12/14に日本教育新聞および財団ホームページで結果発表を行った。受賞者への顕彰は現地訪問はせず、直接発送とした。入賞作品集は3月初旬に応募者へ直接発送したほか、財団の助成物品に収蔵し、希望者に配布できるようにした。

※第17回「プリントコミュニケーションひろば」について

予算縮減の為中止とする。応募数の推移、今後のネットワークインフラの進化による通信事情の変化を見据え、コンセプトの再構築をした上で2021年度より再出発を図る。

その他の事項

①理事会・評議員会

- 第41回理事会 6月2日(書面による決議)
- 第42回理事会 6月19日(書面による決議)
- 第10回定時評議員会 6月22日(書面による決議)
- 第43回理事会 6月29日(書面による決議)
- 第44回理事会 11月25日(オンライン会議)
- 第45回理事会 3月30日(オンライン会議)

②新規事業検討の件

- ・本件については、コロナ禍の影響及び予算の大幅減の為、調査活動として継続する。